

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2372600730 | | |
| 法人名 | 有限会社 高良 | | |
| 事業所名 | グループホームゆたか | | |
| 所在地 | 愛知県豊川市新豊町2丁目130番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年2月12日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年3月29日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して8年目に入りまして、開所以来入居されている方が2名平均年齢89.6歳、平均介護度2.8、何が健康を維持していくのに大切かと考えますとやはりそれは食事かと思えます。毎日の食事が美味しく摂れる事がどれほど大事か、今年105歳を迎える方を見ていると毎日よく食べ、よくホーム内を歩き、日々自然に行われている姿がそれを教えてくれています。水と、お米に、こだわりを持ち、食材も産地の新鮮な野菜を取り入れ、食事も職員と入居者の方が自然と会話がはずむそんな楽しい食卓になっています。そして、個人を尊重し、日々の衣食住中から個々の役割を持っていただく様支援し、可能な限り認知症の進行が緩やかに進むようさりげない介護に心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JGD=2372600730&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人『サークル・福寿草』 |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室 |
| 訪問調査日 | 平成23年2月28日 |

ホームは、地域と連携しながら、認知症高齢者の方への支援を行って、8年目になる。利用者一人ひとりが元気な様子であり、会話も多く、食欲もある。全員の方が、居間で他の利用者と会話をしたり、職員の支援を受けて過ごしている。さらに、利用者の生活を支えているホームの設備は、リハビリ仕様でもあり、2階へ続く階段は、緩やかで手すりの位置も考えられてあり、利用者が自分で上ったり降りたりすることができ、その日頃の運動がリハビリにつながっている。また、代表者は栄養士でもあり、毎日の食事は1日の大事な活動のひとつと捉え、カロリーと栄養面を考慮に入れながらメニューを組み立て、食事を通じての健康管理ができています。協力医の月2回の往診や、24時間連携体制も整い、利用者、家族にとって、安心して過ごせるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域に開かれたホームを目指し、地域との交流を抜きにしたホームはありえないと考え、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。 | ホームと地域の関係性を重視した理念を、事務所内にも掲げ、ミーティングで職員全員で話し合い、地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、日々のケアを実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ホームは、町内会に加入し、回覧板も回ってきたり、町内の草取り、防災訓練、祭り等に積極的に参加している。散歩途中の挨拶、フェンス越しの地域住民との会話もごく自然にされています。ホームの行事にも地域の方たちにも参加していた。 | 自治会に加入し、回覧版から地域の行事予定等を知り、年4回の草取りや、地域の祭り、防災避難訓練等に参加している。また、小学校とも交流し、小学生の体験学習として訪問することもある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 校区の小学生30名の地域探検での訪問の際には、職員が認知症のお年寄りとの接し方を伝え、学んでいただきました。(子供とお年寄りとの交流) | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は2ヶ月毎(奇数月)に開催しています。活動状況を報告し後意見等お聞きし、利用者様の状況の理解にもつなげている。町内からは行事等をお知らせがあったりして、参加できることには積極的に参加している。 | ホームの活動状況の報告、利用者の受診結果の報告等を行い、意見や要望等を受けるようにしている。防災訓練の反省として、ホームでできることには限界があり、地域の協力が必要との意見を頂いた。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の保健センター担当者と連絡を取り合い家族の会への協力等を実施している。 | ユニット増設の件で、市担当部署に出向くことも多く、その時にホームの現状を報告したり、指導、助言等を受けている。また、市主催の認知症の研修会等に参加し、行政関係者との連携を深めている。 | |
| | | 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日常的な施錠はないが、不穩が強く外出し交通事故や、転倒のリスクが高い場合には施錠しているのが現状であるが、スタッフが付き添える場合には一緒に外出している。 | 月1回のミーティングで振り返り、どのような行為が身体拘束にあたるのかを話し合っている。外出しそうな方には、止めるのではなく、さりげない声かけや、一緒について行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 各種外部研修で学んできたことを定例会、ミーティング等で伝達している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修に参加し、学ぶ機会を設けている。現在成年後見制度を必要としている利用者様はいない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、入居者・利用者その家族に対しては、契約書及び重要事項説明書を充分説明し同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族とコミュニケーションを図り、意見要望等を聞いている。運営推進会議に於いてもご家族代表に出席して頂き、意見等を伺っている。 | 家族には、毎月1回の請求書発送時にはホーム便りを同封し、近況を報告している。家族の訪問時には、意見や要望を聞くように努めている。出された意見、要望は、ミーティングで話し合われ、運営に反映させている。 | ホームのバーベキューでは、家族の飛び入り参加もあった。ホーム便りで行事の参加や、運営推進会議への自由参加等の呼びかけを行い、幅広い意見、要望を聞ける機会を期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月一回の全体会議、朝のミーティング時に意見、提案の発言の機会を設けている。、 | 全体会議やミーティング時際には、職員が自由に発言できる機会を設けている。また、代表者が現場で職員と共に働いており、意見や提案を直接に話す機会も多く、代表者は、日常的に職員の意見、要望を聞くよう心がけている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の努力を認め、評価しねぎらいの言葉を掛けてくれる。やりたいことは受入、尻込みしているときは背中を押してくれる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 機会あるごとに研修の資料等閲覧し、参加していただくように声掛けしている。研修報告は、毎月の全体会議で発表してもらい研修報告書を全職員が閲覧できるようにしたある。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 事業者連絡協議会や、交流会への参加の機会を積極的に設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | コミュニケーションを図り、話しやすい環境作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 管理者がケアマネ、本人、家族と、コミュニケーションを図り、それぞれの思いヲツカミ、サービスの導入に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族の不安や、希望を良く聞き、認知症の家族会・地域包括支援センター・医療機関など紹介している。又介護支援を初めて受ける方にはデイサービスを併設している為、状況や必要に応じて利用を進めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護ではなく、仲間という気持ちでホーム生活を送っています。利用者のできる能力を生かして家事の一旦を担って頂き、できない部分を支えあっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会しやすい環境を作り、いつでも来ていただける様にしている。5分でも10分でも立ち寄り頂いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人、友人、など馴染みの人がいつでも来ていただけるよう、面会時間の制限を設けず、家族に行きつけの美容院へ連れて行って頂いたりしている。 | 馴染みの美容室に行かれる方、友人や知人がホームを訪れる方があり、個々の生活習慣を大事にしている。防災訓練時、昔の友達と会い、昔話に会話が弾む方もある。また、墓参りには、家族の協力があり出掛けている方もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | トラブルにならない様に仲介に入ったり、レクで皆で歌を歌ったりはするが、利用者同士の支えあいの調整は行えていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院の際は、管理者、職員が面会に行く。家族から状況を聞いたりして、再入居の要望があれば支援している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様からの希望を聞き取ることはなかなか難しく、ご家族様にお話を聞きながら察している。 | 職員は、利用者との関わりの中で、話しやすい環境作りに努めている。利用者との挨拶、会話等、日常的に関わりを作っている。また、意思表示が困難な場合は、言葉や仕草から気持ちの把握に努め、職員会議でも意見交換を行っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | バックグラウンドアセスメントを活用している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | フロアには一人は必ず職員が居て、利用者様の状態を把握している。表情等も観察し心理状態を察している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の希望を聞く、伝えられない場合には察して、原案を作り、ご家族にも意見を頂いている。 | 担当制であり、日頃から思いや意向を聞き、それらを「介護記録表」に残し、会議で職員全員で話し合い、介護計画に反映させている。定期的・状況変化時にモニタリングが行われ、現状に即した計画書となっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 表情、様子等を記入し情報共有に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 傾聴ボランティアの方に来て頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の子供会、老人会の人達と一緒に、なってトウモロコシの収穫に利用者全員で参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 医療機関受診時はご家族の希望を伺い、ご希望の医療機関の受診に努めている。又、連絡、調整も図っている。 | 本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。定期受診も「日々の状態は、ホームが知っている」との観点から、ホームの職員が受診介助を行っている。利用者全員が提携医が主治医となっており、24時間の医療連携体制も整っている | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の変化、気づきを捉えて看護師に伝えている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 主治医との連携を密におこなっている。入院時、退院時の情報交換にも努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の指針を定めている。ご家族により反応はさまざまであるが、御本人が元気な場合は終末期は考えにくいようである。 | 看取りに関する方針で、ホームで可能なケア内容について説明し、同意を取っている。以前、看取った経験もあり、今後も医師、家族とも連携を取りながら、段階的に話し合い、安心して納得できる最期を迎えられるよう努力を続けたい意向である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 一部職員が研修を受けている。すべての職員については今後の課題である。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 早朝を想定した火災の避難訓練を行ったが、夜勤者一人で入居者の避難誘導と連絡は難しい現状である。 | 年2回、避難訓練を実施、避難経路や消防署の協力も得て通報訓練を行い、地域の防災訓練にも参加している。また、備蓄も整っており、マニュアルの作成し、定期的な研修を行っている。 | ホーム内の訓練体制は充分に行われているが、今後に向け、地域住民の参加や協力を得られるよう、今後の取り組みを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 不穏時の対応には苦勞するが、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。 | 本人の気持ちを大切に考え、声かけやケアには、自己決定をしやすい工夫に努めている。「親しい仲にも礼儀あり」を心に、職員全員が一人ひとりの人格を尊重しケアを行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個別に話し合う場(時間)をつくり話を伺ったり、自己決定も好き嫌い、着替えの洋服、外出時の洋服を選ぶ等して頂いている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員側の決まりが優先になってしまっている。大体の一日の流れが決まっており、それに沿って過ごしていただいているのが現状である。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 整容は自立されている方が多く、皆様お洒落です。できない時にはこちらで支援します。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの好みを考え、嫌いな物は別メニューにしたり、調理方法を考え「美味しい」と言って食べてもらえる工夫をしている。季節を感じていただけるメニューを工夫している。利用者と会話をしながら、準備、食事、片づけをしている。 | 食事はホームで調理し、利用者の希望を聞き、調理、盛り付け、片付け等と一緒にを行い、職員も一緒に同じテーブルに座り、楽しい食事としている。また、管理者が栄養士でもあるため、カロリー、栄養面からもメニューや調理の工夫を行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士が毎日の献立を立てている。個別にカロリー、糖分、水分などを調整し、調理方法も考えた上で状態に応じた支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行っている。本人ができないところを支援している。夕食後は義歯を預かり、清潔保持を心掛け、週に一度消毒をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | リハビリパンツは使用しているが、時間や様子で誘導し、失禁の量、回数を減らしているが、パットを当てる等自力では難しい方もいる。 | 個々の排泄パターンを把握し、尿意の無い人に対しては、時間で誘導することで、トイレでの排泄をすすめている。また、尿量の多い方は夜間のみ、紙パンツを使用する等、排泄の自立を目指しながら、個々に合わせて検討を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維を沢山摂れる様に野菜中心の献立となっている。日中はリビングで過ごしていただけるよう促し、家事作業等で身体を動かしていただいている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 現在隔日の入浴となっている。、ホームの都合での入浴にとまってしまっているが、本人が「今日はいや」「もっと後がよい」と希望したときには無理に行わず、時間をおいて声掛け等している。その中でも入浴剤や、季節のゆず、菖蒲湯、もみじ等浮かべ季節を楽しんでいただけるよう工夫している | 基本、一日おきに入浴日は決められているが、毎日でも入浴できる仕組みが取られている。入浴を嫌がる方には、時間を置いて誘ったり、さりげなく暖かい浴室に誘い、自分から入りたくなるような工夫を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室で休息したい時は休んでいただき、夜眠れない時はお話をしたり、テレビを一緒に見たりして落ち着いて頂けるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 調剤薬局の先生に研修をして頂いたり、薬剤について不安、心配な場合は相談に乗って頂いている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事のお手伝いをお願いしたり、外食、季節の行楽、散歩、買い物への外出等支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出支援には努めているが、ご本人の希望の場所へは今後の課題である。 | 一人ひとりの希望を聞いて、日常的な散歩や個別に対応した買い物に出掛けている。さらに、毎月1回、喫茶店のモーニングに出掛け、楽しい時間を過ごしている。また、季節毎に、弁当持参で花見にも出掛けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の所持は難しいが、所持しないことによる不安は今のところない、移動のパン屋や、自動販売機での買い物等行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を希望する方には介助し、ご家族様の声を聞いて頂いている。娘さんからのお手紙の返事を職員と一緒に考えながら書いて出す等支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関や食事スペースに季節の物を飾っている、それを見て利用者同士の会話がはずむこともある。光はレースのカーテンで調節している。空気清浄機も置いてあり、温度、湿度、等にも気を配り、時にはアロマオイルを焚き気分のリラックスにも心掛けている。 | 天井が高く、風通しもよく、アロマを焚いたり畳の部屋もあり、ゆったりできる空間となっている。掃除等を利用者と一緒に行い、季節の飾りが飾られ、自分が住んでいる家という雰囲気を持って頂いている。また、階段はリハビリ効果も兼ねている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホームのあちら、こちらにソファや、籐の椅子が置いてあり、時には気の合う者同士が会話をされたり、独りで過ごしている姿も見受ける。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅より使い慣れたベッドを持ってきたり、家族の方が買ってくださった家具を持ち込み、それぞれの生活習慣にあった、空間の中で暮らしている。 | 寝具やタンス等、馴染みの物の持ち込みができるようになっている。家族の写真や絵が飾られ、職員と一緒に部屋の掃除を行い、整理整頓されている。ドアを利用者側から施錠していることもあり、プライバシーが守れるように配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の移動空間には障害となる物は置かないようにしている。歩行の不安定な方は見守り、一部介助により身体機能の維持を計りながら安全な生活を送ることができるよう支援している。 | | |

(別紙4(2))

グループホームゆたか

目標達成計画

作成日: 平成23年3月17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|----------------------|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 10 | 家族の方に対して意見、要望等がなかなか自由に、遠慮なく言っていたくことができている現状ですので、まずは雰囲気作りをすることを課題に取り組んでいきたいと考えています。 | 家族会を23年度少なくとも年2回の開催。 | 2ヶ月に一回行う運営推進会議に、ご家族様の自由参加を呼びかけ一人でも多くのご家族様に出席いただき、2ヶ月毎の活動状況を報告をし、家族会もスムーズに開催できる取り組みをして、ご家族同士触れ合う場を設け、自由に意見を述べられる会にして行きたい。 | 12ヶ月 |
| 2 | | | | | ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |